

Weekly Report

(2013年12月第5週)

光世証券株式会社

株式市場概況

● 先週 (12/23 - 12/27) の動き

証券優遇税制廃止を前に売りが強かったが、25日の後場から売り圧力が弱まり、日経平均株価は終値で6年ぶりに16,000円の台に乗せて引けた。翌26日は前日の海外市場がクリスマスで休場となっていたものの、実質新年入りでNISA口座を使った売買が可能になったことから積極的な買いが入り、上に窓を開けて取引を開始し終値は16,174円と再び年初来高値を更新した。27日は年初来高値圏と言うこともあり利食いの売りも散見されたが、引けにかけて買いが入り続伸となった。週末の日経平均株価は前週末比+1.94%の16,178円となった。

セクター別では海運、パルプ紙、証券・商品の上昇が大きかった。一方で石油石炭、精密機器などが下落した。スタイルインデックスでは、証券優遇税制廃止で売りが一段落した小型株指数が上昇上位に並んだ。

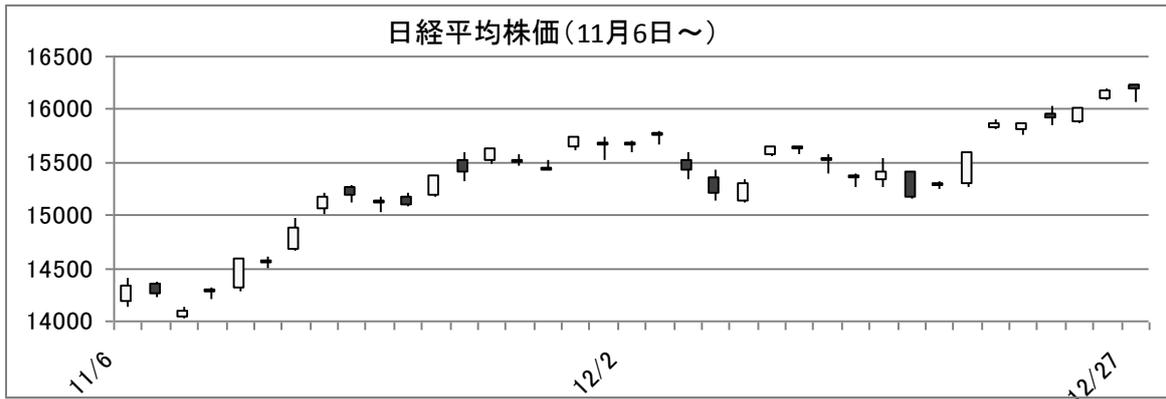
日本の失業率(11月)は4%(予想3.9%・前回4%)となった。有効求人倍率(11月)は1倍(予0.99・前0.98)と6年ぶりの高水準となった。CPI(11月・前年比・除く生鮮)は1.2%(予1.1%・前0.9%)と1%を超えた。鉱工業生産(11月・前年比)は5%(予5.4%・前5.4%)と予想を小幅に下回り、小売売上高(11月・前月比)は4%(予3%・前2.3%→2.4%)と予想を大幅に上回った。

米国の個人所得(11月)は0.2%(予0.5%・前-0.1%)、個人消費(11月)は0.5%(予0.5%・前0.3%→0.4%)、PCEコア(11月・前年比)は1.1%(予1.2%・前1.1%)となった。所得の伸びを消費が上回っている。耐久財受注(11月)は3.5%(予2%・前-2%)と予想を大きく越えた。

セクター動向(先週末比)		各種国内株式指数動向(先週末比)	
海運	7.20%	マザーズ	3.86%
パルプ紙	6.89%	TOPIXスモール	3.43%
証券商品先物	5.62%	東証2部	2.69%
建設業	4.04%	TOPIXバリュー	2.32%
その他金融	3.59%	TOPIX	2.25%
鉄鋼	3.36%	ミッド400	2.23%
空運	-1.01%	TOPIXグロース	2.19%
食料品	-0.91%	コア30	2.16%
サービス業	-0.18%	TOPIXL70	2.04%
証券商品先物	0.05%	日経平均株価	1.94%
医薬品	0.22%	REIT指数	0.83%
情報通信	0.47%		

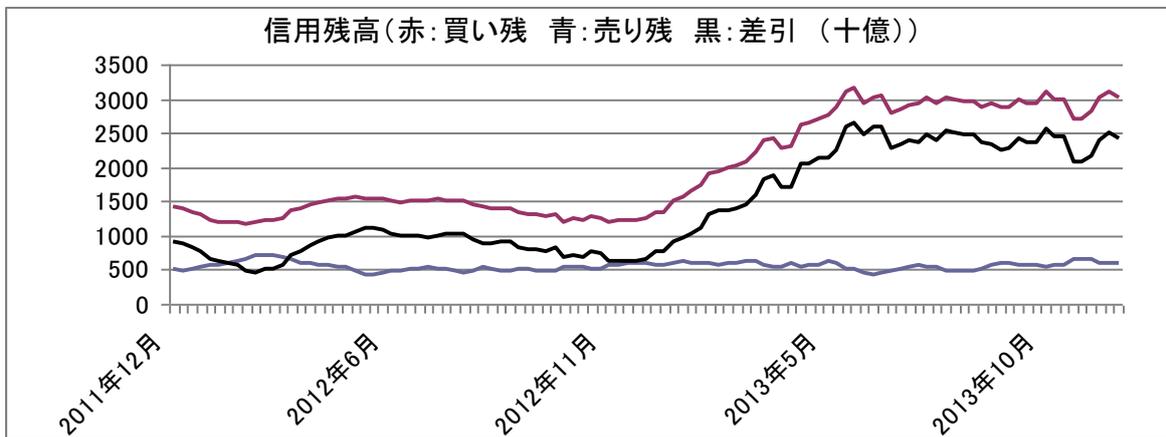
今後の注目材料

日米共に経済指標が強い内容となっており、今後も株価は強い展開が予想される。円安も一段と進んでいることから、輸出関連への物色が強くなるかもしれない。不安材料としては、先週の安倍首相の靖国神社参拝が挙げられる。中韓との関係が一層悪化することは日本経済にとって得策ではない。また、海外投資家は地政学的リスクに敏感であるため、日本株を売りに転じる可能性もあるため、今後の各国の対応に注目しておきたい。



需給動向 (前週分)

投資主体別売買動向では海外投資家が買い越した一方で、個人が1兆円を超える売り越しとなった。信用買い残高は減少、裁定買い残高は増加した。



光世証券 小川 英幸

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成してお

りますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。運用方針・資産配分等は、参考情報であり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

光世証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号
加入協会／日本証券業協会